

寂しさに配慮を

まだ早いのでは？

うちも子供が女の子ばかりなので、私たち兄弟姉妹の代で墓じまいをするつもりです。でも、まだ三回忌では心の整理ができないし、「待ってました」とばかりに支度したようで感じが悪かったです。(私は妹)

実家が欲しい

お姉さんは心のよりどころ、実家をなくしたくないのです。仏壇はそんな実家の象徴なのでしょう。お姉さんは両親を亡くされて、頼れる何かが存在してほしい。そんな寂しさに配慮されてはいかがでしょう。(uma)

悲しみの共有がしたいのかと思う

お姉さんは血縁の絆に理想を持ち続けていると思います。仏壇と墓は「死後の落ち着き先」と考える人も、まだ多いです。「墓をしまおう」と共通の思い出を語り合える人に言われたら、割り切れないと思います。家族が減ってい

仏壇で姉ともめています

2人きょうだいの弟で、姉がいます。私が建てた家に住んでいた両親が、相次いで亡くなりました。宗教を信仰していないので、三回忌が先日過ぎたのを機に、両親が買った墓

や仏壇を処分し、しまおうと考えています。しかし、姉は「長男宅に仏壇があるのは当然」と大反対で、「そんなに仏壇に手を合わせたいなら引き取って」と言っても「長男でないから」と拒否。どうすれば説得できるでしょう。(亜鉛)



仏壇の処分 姉が反対

くことを受け入れられない人も多いです。2人で両親の話をしてはどうですか。(蕾)

反対ある間は難しい

時間が解決することもある

私の実家は旧家ですが、4人きょうだいで残ったのが末っ子の女の私だけ。墓をどうするか父方の親戚に色々言われて悩みましたが放置しました。その親戚も亡くなり、誰も何も言わなくなりました。誰かが反対しているうちは、墓じまいはなかなか難しいですが、時が解決した例としてご参考までに。(クロネコ)

説得は無理でしょう

どんなに理屈で説得しても感情で返されたらどうすることもできません。お姉さんは実家という、よりどころが欲しいんじゃないですか。仏壇があって、定期的に訪問するというのは、お姉さんにとって、いつまでもあなた方とつながっていられるということではないかと思うんですよ。

維持する気がないと言い切るなら、疎遠にするという覚悟を持つしかありませんよ。(あらふいふ)

お姉さんに手紙を書きましょう

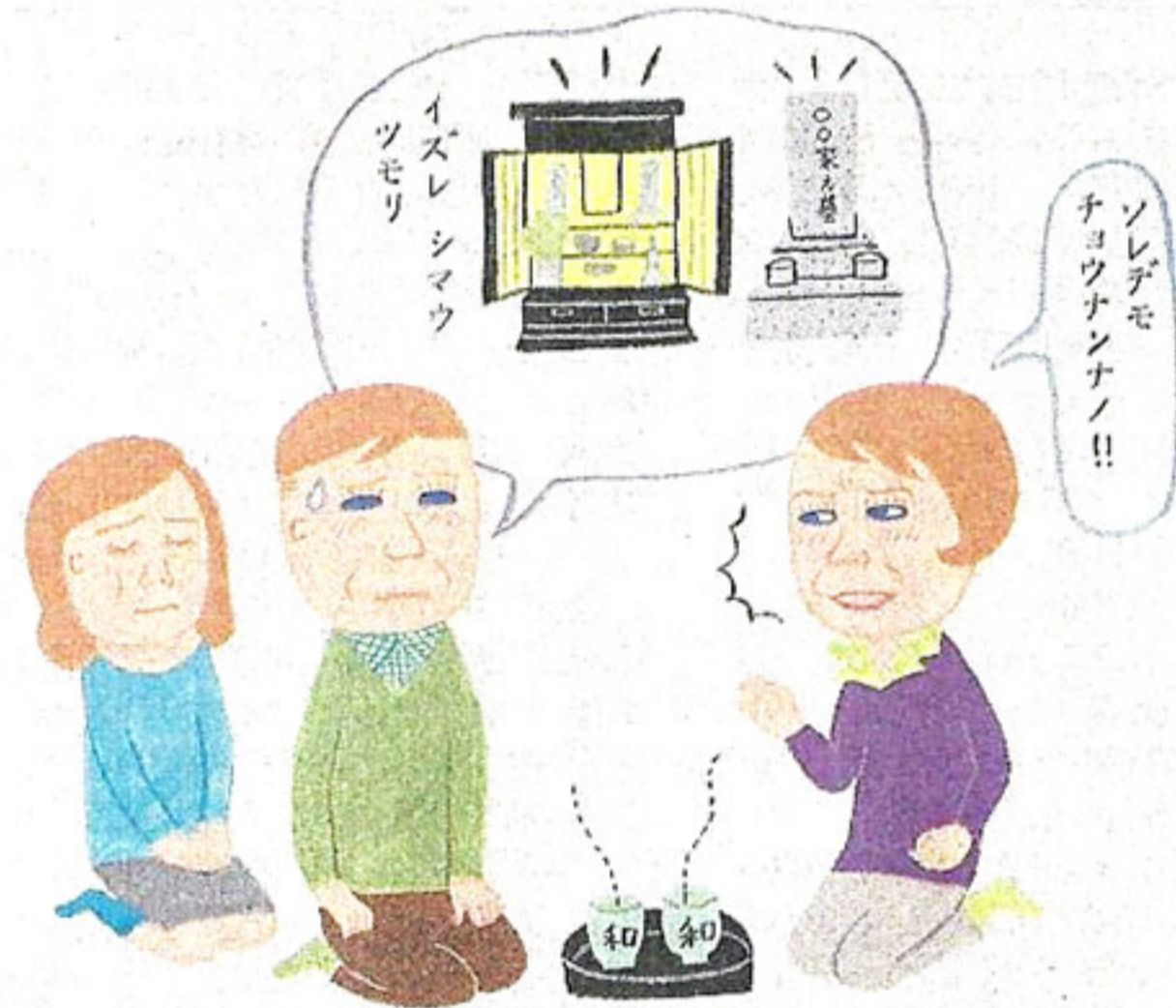
トピ主さんが、論理的に説得するしかないと思います。会ってもうちがあかないようなので、手紙を書いて思いのたけを伝えたらどうでしょうか。紙に書かれた文字は重いんです。お姉さんは何も言えなくなるとおもいますよ。(解決屋)

遺影飾るだけでも

写真で十分

仏壇にこだわる必要はないと思います。ご両親の写真をフォトフレームに入れて飾るだけで十分だと思います。我が家は毎日、両親の写真に大好きだったコーヒーをそなえ、手を合わせています。お姉さんにも仏壇ではなく写真を飾って、毎日手を合わせてはと勧めたいかと思うんですよ。(美奈)

姉が反対



イラスト・山崎のぶ

〇年〇月末までに仏壇と位牌を引き取りに来ない場合はしまいをする

〇年〇月末までに仏壇と位牌を引き取りに来ない場合はこちらで「しまい」をします、墓じまいもしますと姉に手紙を書き、実行すればいいと思います。先祖代々ずっと同じ地域に住み墓や仏壇を維持した社会が終わった時点で、仏壇などは引き継げない社会になったんです。(婆)

供養は気持ちが大事

一般社団法人「終活カウンセラー協会」代表理事、武藤頼胡さんの話「何か事情があって仏壇を処分するという結論になったのだと思います。供養で一番大事なのは気持ちです。お姉様が自宅では嫌だけどあなたの所にお参りにいくということなら、少し処分する時期を後にしてはどうでしょう。お姉様の状況、気持ちが変わることもありますし、お姉様の意図が分かるかもしれません。大事な両親のことなので時間も必要だと思います」

「親から美容整形しろと言われている」というトピを見つけた。30歳独身の娘に「お金を出すから、ほくろを取る美容整形を受けろ」と親が要求するので、親御さんはほくろのせいで娘が結婚できないと思込んでいるようです。これは世代間ギャップの典型的な例だと思いました。親の世代は「女性の幸せ



柴門ふみ

価値観ですれ違う親子

イコール結婚」という固定観念に縛られていて、その道から外れている娘は不幸だと感じているのです。一方娘は、現在3年付き合っている彼氏もいて自分のことを不幸だとは全く思っていない。けれど真っ向から言い返すと親を傷つけそう、と悩んでいます。

この親子、お互いを気遣い合ういい親子です。つまり似た者親子なのです。ただ、生きてきた時代によって価値観が異なっており、

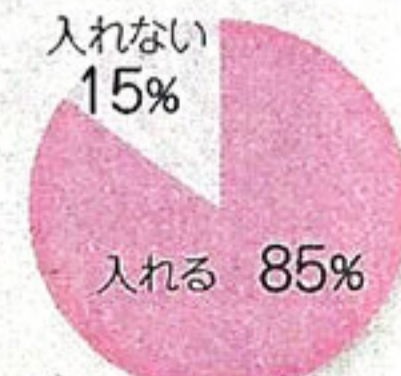
そのため気持ちがすれ違ってしまったのでしょう。私自身もほんの数年前まで、結婚して幸せな家庭を築いている女性が最高だという考えを引きずっていました。しかし「家庭より、仕事している方が俺は幸せなんだ」と夫から言われて目が覚めました。夫を家庭から解放してあげた結果、私自身も幸せになれたのです。しかし、こんな簡単なことに気づくのに40年近く費やしたかと思うと、我ながら情けなくなりま

す。家族とは不思議なもので、気持ちがすれ違っていたかと思うと、ひょんなことをきっかけに関係が修復したりするのです。とりあえず、互いに「時代に刷り込まれた価値観」と「人類普遍の真実」の違いを確認し合うのが良策なのでは。

※「小町拝見」の筆者に柴門ふみさんが加わりました。

Q カレーにジャガイモ入れる?

家でカレーを食べようとしたら、ジャガイモが入ってなかったというトピ主さん。するとお母さんが「今日ジャガイモ入れてないから」。トピ主さんは「ジャガイモのないカレーなんて、カレーじゃない!」とお怒りです。ツイッターで入れるかどうかを尋ねると、「入れる」派が85%に上りました。



「小町Vote」を、ツイッター (@kuraget) で受け付け中。

